

特別編

九州の逸品

KYUSYU NO IPPIN

FILE No.47



九州の「地域ブランド」を
ご紹介致します。

福島善三

Fukushima
Zenzo

小石原焼陶芸家（人間国宝）特別インタビュー

Profile・1959年、小石原村（現・朝倉郡東峰村）に生まれる。
大学卒業後に家業の小石原焼窯元「ちがいわ窯」に従事。
「第15回日本陶芸展 大賞桂宮賜杯」、「第50回日本伝統工芸展
日本工芸会総裁賞」など受賞多数。2014年「紫綬褒章」受賞。
2017年、「重要無形文化財保持者（人間国宝）」に認定。

はじめに

今回「九州の逸品」では、福岡県朝倉郡東峰村の伝統的工芸品である「小石原焼・高取焼」を紹介します。はじめに、昨秋、国指定重要無形文化財保持者（人間国宝）に認定された小石原焼陶芸家・福島善三氏にお話を伺いました。

300年以上続く
小石原焼の窯元

私は山深く自然豊かな小石原で300年以上続く小石原焼の窯元「ちがいわ窯」に生まれました。当時の小石原焼は一子相伝で継承されており、8〜9軒しか窯元はありませんでした。小さい頃は、祖父や父、7人程の職人さんが働く作業場に入ってはろくろを使っていた。

高校時代から家業を継ぐことは意識していましたが、大学は美大ではなく一般の大学に進学し、

青春を謳歌しました。大学時代、友人たちが就職活動に入った頃、「良い窯があれば弟子入りさせてもらおう」と、全国の窯を約3週間かけて巡ることにしました。広島や岡山、大阪など9都道府県、10軒近い窯元を見て回って気付いたことが、小石原焼のろくろの技術の高さです。「外で修業する必要はない。小石原に戻り、祖父や父に技術を学ぼう」と決心しました。

私が大学を卒業し本格的な修業に入ったところ、民陶ブームの最盛期で小石原に新しい窯元が続々と誕生し、8〜9軒ほどしかなかった窯元も40軒近くにまで増えました。

40軒近くある窯元が同じものを作ると、需要と供給のバランス



東峰村にあるギャラリー

で余ってしまいます。だったら、自分は他と同じことをせず、伝統を守りながらも新しいものを生み出していこうと思いました。

とはいえ、当時は作れば飛ぶように売れる時代で家の仕事が多く、朝8時から夕方5時までは他の職人さんと同じように仕事をこなし、それが終わってから自分の作品を作って様々な公募展に応募しました。

小石原の地で原材料を調達し、すべての工程を一人で行う

私の作品は、飛^{とび}鉋^{かん}や刷^は毛^け目^めといった小石原焼の技法をあえて抑えた作風で「これは小石原焼らしくない」と若いうちは認めてもらえないこともありましたが。しかし、飛鉋の技法は昭和初期に始まったものです。当時、最新だったものが、20〜30年経てば伝統になる。

だったら飛鉋や刷毛目にとらわれないで、自分が良いものを作っていけば、いつかそれが伝統になるのではないかと考えました。

今は、陶土、釉^{ゆう}薬^{やく}の原料となる長石、木灰、ワラ灰、鉄鉱石など、原材料のほとんどを小石原の地で調達し、地元の陶土を水^{すい}簸^ひして粘土にし、粘土をこねてろくろを廻し、独自の釉薬をかけて窯^たを焚^たく。すべての工程を自らで行っています。

また、釉薬も理想とする色が出るまで試行錯誤と失敗を繰り返して、無駄なこともたくさんしてきました。1つの色に到達するのに5年から10年かかるので、根気よく諦めないことが肝要です。

作風も若い頃から変化しています。最初は緑の鉄^{てつ}釉^{ゆう}に始まり、その後^{かく}赫^く釉^{ゆう}、中野^{あめ}飴^{ゆう}釉^{ゆう}などがあり、今は青白い釉薬を使った「中野^{なかの}月白^{げつぱく}瓷^じ」です。

人間国宝に選定 今後とも研鑽を積む

昨秋、福岡県の陶芸家としては初めて国指定重要無形文化財保持者（人間国宝）に選んでいただき、責任の重さを改めて感じています。

人間国宝の認定を受ける前から5年先のスケジュールは埋まっていたが、認定を受けてからさらに忙しくなりました。作品も常につくっていないといけませんから、今も東峰村にいるときは出来る限り作品をつくっています。

若いうちから人間国宝に選んでいただくということは、国から「新しいものを作ってください」という意味がこめられているのだと思います。新しいものを作り続けることは、決して楽なことではありませんが、試行錯誤しながら土と向かい合っていこうと思います。

九州北部豪雨から約1年 展示会で復旧・復興支援

昨年7月の九州北部豪雨の際には、多くの方に助けていただきました。小石原焼の窯元約50軒のうち、半数近くが被災しましたが、1軒もやめることなく続けています。

今年の10月には、福岡県朝倉市にある「甘木歴史資料館」で小石原の復興を祈念して、小石原の作家数人で企画展を開催する予定です。また、11月には全国の伝統的工芸品の展示・紹介を行う「伝統的工芸品月間国民会議全国大会」が福岡で開催されますので、小石原焼の復旧・復興支援につながればと思います。

私も東京や大阪などで作品展示をすることで、小石原焼の認知度を上げていければと思っています。



上.中野月白瓷鉢／下.赫釉匏文壺

福岡県朝倉郡東峰村には、小石原焼と高取焼の窯元が約50軒あります。ここでは、それぞれの陶器の歴史や特徴を紹介します。

小石原焼



生活雑器としての道を歩みながら、用と美を確立した小石原焼。

素朴で温かい持味を出す、飛鉋、刷毛目、櫛目、指描、流し掛け、打掛けなどの技法が生きています。

多くの窯元は、そんな伝統の技を大切に受け継ぎながら、小石原焼の発展を願ってさらに新しい作風の確立をめざしています。

現在の小石原焼に至るまで

1682年(天和2年)、黒田三代藩主・光之が招いた肥前・伊万里の陶工が中国風の磁器を伝え、

既に小石原にあった高取焼と交流することで、小石原焼が形成されました。

大正から昭和のはじめ頃までは、共同窯を使って大型の甕・鉢・皿・すり鉢などを作っていました。が、民芸活動の推進者、柳宗悦、バーナード・リーチらによって小石原焼が全国に紹介され、民陶ブームが到来したことで共同窯は消え、個人窯元が増えました。そこで暮らしの中で使われる生活の器づくりが活発化していったのです。

名声を得た小石原焼

1958年(昭和33年)ベルギーのブリュッセルで開かれた万国博覧会日本館第3部出品でのグランプリ受賞、1961年(昭和36年)の日本工芸館小石原分館(現・小石原工芸館)の設立も小石原焼の発展に弾みをつけました。

そして、1975年(昭和50年)には陶磁器では日本初となる「伝統的工芸品」に指定されました。

高取焼



東峰村には高取焼の技法を継承する窯元が数戸あり、「遠州高取」の風格を今に伝え、「綺麗さび」の世界を展開しています。

精密な工程、華麗な釉薬、繊細な生地味。特に鉄・藁灰・木灰・長石を原料とし、微妙な調合で作られた釉薬を駆使して焼成される茶陶類は、気品に満ちあふれています。

高取焼のルーツ

豊臣秀吉の二度にわたる朝鮮出兵(文禄・慶長の役)で、西国大名たちは、多数の朝鮮人陶工を連れ帰り、各地に焼き物の窯を開かせ

ました。福岡藩主黒田長政もその一人で、連れ帰った陶工八山(日本名・高取八蔵)に直方市鷹取山の麓に窯を築かせたのが高取焼の始まりです。

その後、1614年(慶長19年)に直方市・内ヶ磯に、1624年(寛永元年)に山田市・唐人谷に、1630年(寛永7年)に飯塚市・白旗山(現・飯塚市幸袋)に窯を移します。この頃、茶人小堀遠州の指導を受け「遠州高取」様式がほぼ完成します。

八蔵はこの地で亡くなり、二代目八蔵が1665年(寛文5年)に小石原村鼓釜床に開窯。元禄年中(1688年～1704年)に早良郡田嶋に移窯すると共に、八蔵は鼓から通動しながら御用を務めました。

その後明治維新まで高取家は代々福岡藩窯頭取の職務を務めています。

九州北部豪雨からの復旧・復興をめざす 小石原焼・高取焼



昨年の九州北部豪雨では、小石原焼・高取焼の約50窯元の内、半数近くが甚大な被害を受けました。降り始めからの500ミリを超える雨量は、幹線の国道211号と焼き物の産地を直撃し、窯元の住居はもとより、作業場、製造所等に打撃を受けました。中には、土砂で窯が倒壊するなど大きな被害が出て、復興に時間がかかっている窯元もあります。

今回は、小石原焼・高取焼から5軒の窯元を紹介します。窯元は他にもたくさんありますので、ぜひ東峰村へ足を運んで、様々な窯元を巡り復旧・復興を後押しください。

上記写真は、昨年7月5日の九州北部豪雨の様子(東峰村) ※写真提供：東峰村役場

有限会社 やまさん 柳瀬窯元



1



2



3

1.小石原焼の技術を駆使した作品
 2.黒呉須を使ったモダンなカップ／3.被災後に屋根を改装(店舗外観)

創業から約350年、本窯十統の一つとして小石原焼の歴史を支えてまいりました。民陶は暮らしの中で役立つこそ、その価値が生まれます。柳瀬窯では小石原焼の伝統的な技法を守りながら、新しいデザインを取り入れています。今のライフスタイルに調和するよう、暮らしに潤いをもたらす作品づくりを目指しています。

昨年の九州北部豪雨では、裏山が崩れ土砂が家や店舗まで入ってきました。傾斜地であり、土砂の流れ先があつた為、建物の被害が少なかったのが幸いです。重機が使えない場所でしたので、ボランティアの皆さんに手作業で土砂を取り除いて頂けたので、とてもありがたかったです。通行止めが続きましたので小石原焼支援のためのイベントを各地で開催していただきました。県庁ロビーや道の駅など皆様のあたたいご支援に感謝いたしております。ご支援を忘れず、日々努力していきたいと思ひます。多くの方々の温かいご支援に心より感謝申し上げます。

■住 所：福岡県朝倉郡東峰村
 大字小石原790
 ■電 話：0946-74-2206
 ■営業時間：9:00~17:00
 ■定 休 日：不定休
 ■<http://www.yanasekamamoto.com/>



柳瀬眞一

おう めい かま もと
翁明窯元



1



2



3

1.食卓が楽しくなる手の温もりのある器
2.1本1本手彫りした器／3.店舗外観

父・鬼丸翁明、子・尚幸たかゆきの窯元です。物づくり
に喜びと誇りを持ち、手間隙かけて、丁寧な手
仕事を心がけています。伝統的な技法を使った
器や水玉模様の器など、使っている人がやさしい
気持ちになれる器作りに注力しています。
九州北部豪雨では、工房と店に土砂が流れ込
みましたが、皆で力を合わせて土砂をかきだし、
なんとか1カ月後には店の営業を再開するこ
ができました。機械の整備や建物の補修工事な
ど、復旧途中ではありますが、被災後は多くの
人に支えられ、励まされました。この場をかりて
お礼申し上げます。
これからも、日々の暮らしが、豊かに楽しくな
るような器作りを目指してまいります。

- 住 所：福岡県朝倉郡東峰村
大字小石原1126-1
- 電 話：0946-74-2186
- 営業時間：10:00～18:00
- 定 休 日：不定休
- <http://www.020oumei.info/>



鬼丸翁明

たか とり やき そう け
高取焼宗家



1



2



3

1.作品を展示するギャラリーを併設
2.十三代 高取八山作 茶碗／3.窯焚きの様子(写真は登り窯)

400年以上の歴史と伝統を受け継ぐ、一子
相伝による高取焼直系の窯元です。茶器で使う
器をはじめ、普段遣いの器などを作っています。
九州北部豪雨では、土を扱う唐臼や穴窯、駐
車場など数カ所被災しました。少しずつ復旧し
ながら作陶していますが、穴窯の再建は時間が
かかる為、今年の7月、小ロットの生産用に単窯
を作りました。
ここに至るまでは、本当にたくさんの方々のご
支援やご協力、多くのボランティアの方々のお力
添えがありました。心からお礼申し上げます。
ギャラリーを併設していますので、陶器市
「民陶祭」の時だけでなく、普通の日にも訪れて
ゆつくり器を見ていただければ嬉しいです。

- 住 所：福岡県朝倉郡東峰村
大字小石原鼓2511
- 電 話：0946-74-2045
- 営業時間：9:00～17:00
- 定 休 日：月曜
※月曜が祝日の場合は火曜休業
- <http://www.takatoriyaki-souke.com/>



十三代 高取八山

たか とり やき はっ せん がま
高取焼八仙窯



1



2



3

1.築148年の店舗。今年5月半ばに茅葺屋根の修復工事を終える
2.肩衝茶入／3.前押茶碗

親子三代で作陶しています。黒田藩の御用窯で小堀遠州公の指導により、1600年頃から火を絶やす事なく茶道具を造って参りました。作行きとしては薄造りが基調で多種多様な色使いが特徴です。

昨年の九州北部豪雨では、登り窯の傍らの山が崩れ50t以上の土砂が流出しましたが、幸いにも窯自体には被害がなく、多くのボランティアの皆様のお陰で早期に現状に近い状態に戻すことができました。豪雨以来、皆様には大変ご心配をお掛けし、またご支援いただきまして、心から深くお礼申し上げます。

今後も心のこもった作品を作り続けていきたいと思っています。どうかよろしくお願い申し上げます。

■住所 福岡県朝倉郡東峰村
大字小石原812-1

■電話 0946-74-2211

■営業時間 9:00~18:00

■定休日 なし

※団体のお客様は、事前連絡があると
対応がスムーズにできます

■<http://takatoriyaki.co.jp/>



左から高取忍、十三代 高取八仙、
高取周一郎

たか とり やき おに まる せつ ざん がま
高取焼鬼丸雪山窯



1



2



3

1.香るカップシリーズ
2.店舗外観／3.世界最高水準の高音質スピーカーシステム

高取焼の名工で知られる初代・鬼丸雪山の茶陶としての伝統を受け継ぎながら、現代に必要とされるものづくりを目指しています。

例えば「香るカップ」は高取焼の特徴を活かした薄い作りで、飲み物の香りを引き立て、飲み口が薄くやさしい口当たりです。また、鉄分が多きめが細かい小石原の土を使つてつくる陶器スピーカーは、高音が特に美しいと世界中から注文が入っています。

九州北部豪雨では茶室に土砂が入りましたが、皆さんの協力もあり、復旧することができました。

これからも東峰村から世界に向けて、付加価値の高い、今までにない作品を発信していきます。

■住所 福岡県朝倉郡東峰村
大字小石原962-1

■電話 0946-74-2810

■営業時間 8:00~18:00

■定休日 なし

■<http://takatoriyaki.com/>



二代目 鬼丸碧山